

# 英語科学習指導案

指導者 広島市立〇〇中学校

教諭 〇〇 〇〇

1 日時・学年・学級 令和〇年〇月〇日 (〇) (〇:〇 ~ 〇:〇) 1年〇組 (男子〇名 女子〇名)

2 単元名 ONE WORLD English Course 1 Lesson 6 外国の学校と日本の学校

## 3 単元について

### 単元観

本単元は、日本、アメリカ、オーストラリアの学校生活の違いについて登場人物が尋ね合うという内容である。

学校生活を扱っており、生徒にとっても身近な話題であるため、日常生活の話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることに適した教材と言える。

したがって、本単元では、「CAN-DOリスト」話すこと（やりとり）②の達成に向けて、日常生活について尋ねられたことについて口頭で適切に答える力を養う。

## 4 単元の目標と評価規準（※能力に関する記述のみとしている）

〔目標〕 〇 日常生活について尋ねられたことについて口頭で適切に答える。

→ 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標との関連 話すこと [やりとり②]

〔評価規準〕 〇 日常生活について尋ねられたことについて口頭で適切に答えることができる。

### ※ 「CAN-DOリスト」の形での学習到達目標【1学年終了時】

外国語表現の能力		外国語理解の能力	
話すこと	書くこと	聞くこと	読むこと
やりとり ① 関心のあることについて、簡単な語句や文を用いて即興で伝え合うことができる。 ② 日常生活の身近な話題について、事実や自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。	関心のある事柄について、簡単な語句や文を用いて正確に書くことができる。	ゆっくり繰り返し話されれば、日常生活の身近な話題について、必要な情報を聞き取ることができる。	日常生活の身近な話題について、簡単な語句や文で書かれたものから必要な情報を読み取ることができる。
発表 日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話すことができる。	日常的な話題について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある文章を書くことができる。	ゆっくり話されれば、日常生活の身近な話題について、話の概要を捉えることができる。	日常生活の身近な話題について、簡単な語句や文で書かれた短い文章の概要を捉えることができる。

## 5 指導と評価の計画

時	ねらい	評価方法
1	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 本単元で身につける技能や理解する内容を知る。</li> <li>・ 最終ゴール（パフォーマンステストの概要）を理解する。</li> <li>○ 日常生活について尋ねたり，口頭で適切に答えたりすることに役立つ既習表現を復習する。</li> </ul>	
2	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書本文(Part. 1)から，日常生活について尋ねたり，適切に答えたりすることに有用な表現を見つけ，その表現に慣れる。</li> <li>・ A L Tがどんな質問をするか考えた後，ペアで質疑応答の練習をする。</li> </ul>	
3 (本時)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書本文(Part. 2)から，日常生活について尋ねたり，適切に答えたりすることに有用な表現を見つけ，その表現に慣れる。</li> <li>・ A L Tがどんな質問をするか考えた後，ペアで質疑応答の練習をする。</li> </ul>	
4	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書本文(Part. 3)から，日常生活について尋ねたり，適切に答えたりすることに有用な表現を見つけ，その表現に慣れる。</li> <li>・ A L Tがどんな質問をするか考えた後，ペアで質疑応答の練習をする。</li> </ul>	
5	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 教科書本文(Part. 4)から，日常生活について尋ねたり，適切に答えたりすることに有用な表現を見つけ，その表現に慣れる。</li> <li>・ A L Tがどんな質問をするか考えた後，ペアで質疑応答の練習をする。</li> </ul>	
6	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 日常生活について尋ねたり，口頭で適切に答えたりするやりとりの練習をする。</li> </ul>	
後日	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ パフォーマンステスト（スピーキングテスト）</li> <li>・ 日常生活について尋ねられた質問に適切に答える。</li> </ul>	パフォーマンステスト

※ 評価については，ここでは指導に生かすための評価（形成的評価）は示しておらず，外国語表現の能力の観点の評定につながる評価（総括的評価）に係るもののみを示している。

## 6 単元を通しての指導上の工夫点

- ① 様々な方法で教科書の音読をする時間を設定し，表現する力の向上につなげる。
- ② 単元の目標を毎時間伝えることで，これからどんな力をつけようとしているのか，意識付けをするとともに，見通しをもって活動に取り組めるようにする。
- ③ 活動の設定にあたっては，目的・場面・状況を明確にする。
- ④ 自己関連性（Personalization）を意識する。

## 7 本時の指導過程と評価

(1) 本時のねらい

- 教科書本文(Part. 2)から，日常生活について尋ねたり，適切に答えたりすることに有用な表現を見つけ，その表現に慣れる。

(2) 生徒達の「主体的・対話的で深い学び」につながる六つの視点

(※ 学習指導案 7 (3)に番号【①～⑥】で表示)

① コミュニケーションの目的・場面・状況の明確化	④ インフォメーションギャップ
② ペアやグループでの活動の重視	⑤ 豊富なインタラクション
③ 英文を読む目的の明確化	⑥ 自己関連性(Personalization)

(3) 本時の指導過程と評価

	学習活動	○指導上の留意点 ◆ 「努力を要する」状況と判断した生徒への支援	評価規準 (評価方法)
導 入	1 あいさつ ～帯活動～ (①②④⑤⑥) (1) 前時で扱った疑問詞(when)の復習を、音読を通して行う。 (2) 疑問詞を用いた会話の練習(ペアワーク)	○ コミュニケーションを重視するので、文法的なミスにはこだわらない。 ○ 既習の疑問詞を、ICTを使用して復習を行う。	
展 開	2 本時のねらいの確認 <div style="border: 2px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">○○先生の質問を予想し、答えることができる。</div> 3 デジタル教科書で本文の音声を聞かせた後、本文の内容にかかわる発問の答えを考える。(②③) (1) 本文のリスニング (2) 発問の提示 (3) 黙読 (4) 小グループで協議  4 音読練習 (1) Listen and Repeat (2) Read aloud Listen and Repeat (3) Read and Look up (4) Sight Translation  5 教科書本文の中で、本時のねらいにかかわる表現や単語などを探す。 (1) 該当すると思う表現、単語に下線を引く。 (2) その表現や単語を利用した質問文を考える。 (3) 考えた質問文を全体で交流する。  6 ペアになり、ALT役と生徒役に分かれて、やりとりを行う。(①②④⑤⑥)	○ はじめは音声だけを聞かせ、内容をイメージさせる。 ○ ここでは、内容理解ができていない生徒が少ないことが考えられるが、すぐに答えを求めるのではなく、次の音読を通して内容理解を進めていく。 ○ 分からない生徒が不安にならないよう、すぐに発問に答えられなくても、繰り返し確認するので大丈夫である旨の声かけをする。 ○ 音読を繰り返すことで、少しずつ内容が分かるという感覚をもたせる。  ◆ 該当すると思う表現をみつけるのが難しい生徒には校内の施設の名称などを示し、アドバイスする。	
ま と め	7 まとめ、あいさつ 本時の振り返りを記入し、本時で作成した疑問文を振り返りシートに書かせる。	◆ 書くことが難しい生徒には、単語のヒントなどを与える。	